

科学技術分野における女性の活躍促進

文部科学省は、科学技術の魅力を伝え、ひとりひとりの人材の個性が生きる環境をつくることにより、科学技術分野における女性の活躍促進を支援します。

研究に再チャレンジ
する人へ

出産・育児等による研究中断からの復帰支援

優れた男女の研究者が出産・育児等により研究を中断した後に、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究奨励金を支給します。（日本学術振興会特別研究員事業）

平成18年度予算案：1億3千万円【科・基盤政策課(日本学術振興会)】

女性研究者を
支援する研究機関へ

女性研究者支援モデル育成

女性研究者の育成・活躍促進を積極的に行うモデル的な機関の取組を、国が経済的に支援します。（科学技術振興調整費）

平成18年度予算案：5億円【科・科学技術振興調整費室】

将来の進路を考える
女子中高生へ

研究者・技術者と中高生の交流機会や事例紹介

科学技術分野で活躍する研究者・技術者、大学生等と女子中高生の交流機会を設けたり、科学技術分野で活躍する女性の事例紹介等、進路選択に役立つ情報提供を行います。

平成18年度予算案3千5百万円【科・基盤政策課】

中高生の
興味・関心を
高めるために

女子中高生の理数への関心を高める取組の拡充

中学・高校において第一線の研究者の招へいによる講座を行うなど、女子中高生の理数に学び親しめる機会を拡充します。

- ・スーパーサイエンスハイスクールが行う特別研究で、女性研究者等を活用する研究・取組を支援
- ・サイエンス・パートナーシップ・プログラムの初実施の際に女子を対象とする取組を重点支援

【初・教育課程課・科・基盤政策課(科学技術振興機構)】

キャリア形成支援を行う
社会教育関係者の方へ

女性の理工系進路選択支援を行う社会教育関係者等への取組

女子生徒の科学技術分野への進路選択を支援するため、社会教育関係者等に向けた取組のモデルプログラム事例集を作成し、地域の女性センター等を対象とした指導者研究会を開催します。（「女性のキャリア形成支援プラン」の拡充）

平成18年度予算案：5千万円の内数【生・男女共同参画学習課】

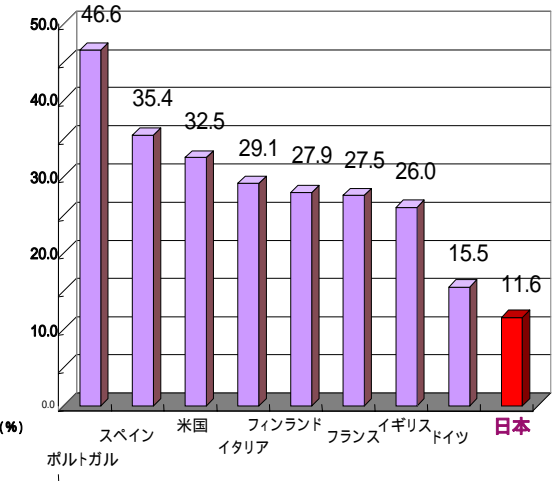
現状と従来の取組

女性研究者の数、比率は少しずつ増加しているものの、欧米に比べ著しく低い状況。理工系の学部・大学院において特に女子の割合が低い。

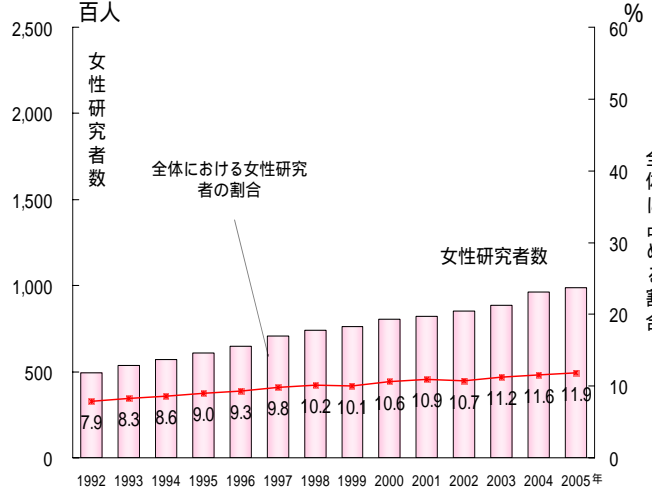
文部科学省では、これまで、特別研究員事業、科学研究費補助金や戦略的創造研究推進事業(科学技術振興機構)において、採用された研究者が出産、育児等による研究の一時中断後の再開を可能とする等、出産・育児等との両立のための措置を行ってきた。

科学技術創造立国および男女共同参画社会の実現のため、施策のより一層の充実が必要

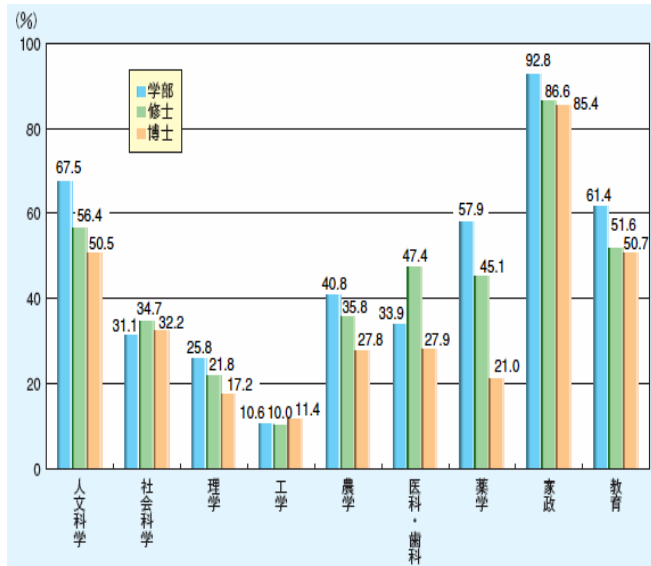
研究者に占める女性の割合



女性研究者数・比率の推移



学部学生・院生に占める女性の割合(分野別)



出典: 内閣府男女共同参画局「平成17年男女共同参画白書」

出産・育児による研究中断からの復帰支援

特別研究員事業（日本学術振興会）における復帰支援枠の創設

18年度予算案：1億3千万円（新規）
【科・基盤政策課（日本学術振興会）】

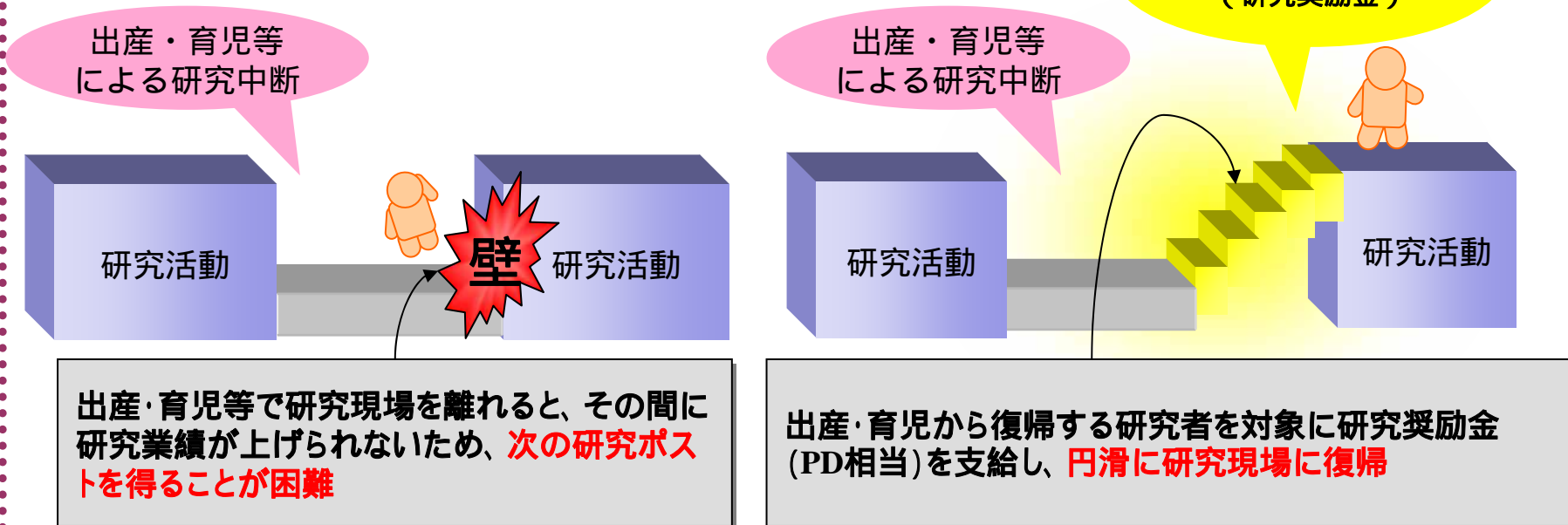
特別研究員（復帰支援）を創設

【対象：研究中断から復帰する博士課程修了者等 月額36.4万円】

優れた男女の研究者が、出産・育児等による研究中断後に、円滑に研究現場に復帰することを支援。（H18予算案：30人）

<従前>

<支援開始後>



特別研究員事業

優れた若手研究者が、自由な発想のもとに主体的に研究に専念できるよう研究奨励金を支給する事業（昭和60年度～）。研究奨励金その他、科学研究費補助金（研究奨励費）の申請資格が与えられる。

女性研究者支援モデル育成(科学技術振興調整費)

- 目的：優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として**女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための支援を行う仕組みを構築するモデルとなる優れた取組**を支援する。
- 対象機関：大学、大学共同利用機関、国立試験研究機関及び独立行政法人
(自然科学全般又は自然科学と人文・社会科学との融合領域を対象に研究を行っていること)
- 実施期間：原則3年間
- 実施規模：年間2～5千万円程度(間接経費を含む)

「日本の女性研究者の数及びその割合は増加傾向にあるものの、全体に占める割合は依然として国際的に見ても少ない。また、指導的な地位に女性が十分登用されていないなどの指摘がある。女性研究者の育児責任は男性に比較して大きく、出産・育児によって研究活動を十分に継続できない女性研究者も多い。」(17年度版男女共同参画白書より)

優れた女性研究者を輩出する システムの確立と波及

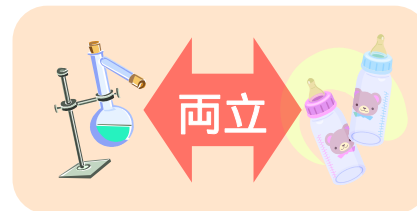
公募により、各機関のモデルとなる優れた取組を支援。
3年の支援終了後は各機関において独自に予算措置。

期待される女性研究者の採用目標の達成の前提として、
環境整備のみならず意識改革の着実な実施が必要。

<選定に当たっての要件>

女性研究者を積極的に登用するための取組状況(行動計画の策定、推進体制の整備など)

支援対象となる女性研究者の人数や今後の増加の見通し



支援ニーズに対する取組例

- 大学等における出産・育児と研究の両立や男女共同参画に関する相談体制(カウンセラーの配置など)
- 出産・育児期間中の業務負担を軽減するためのシステム作り(柔軟な勤務態勢の工夫など)
- 育児の状況等に応じて、フルタイムでなく、パートタイムで働ける環境の整備(研究支援者の配置など)
- 女性理工系学生が研究者の道にチャレンジすることを促進する施策(若手女性研究者との交流の場の設置、女性理工系学生向けのキャリアパス相談の充実化等)

女性の科学技術分野への進路選択支援と理数教育への関心向上

課題

我が国の女性の研究者割合は国際的に見て著しく低く、女性が科学技術分野に進む上での参考となる身近な事例（ロールモデル）が乏しく、女性が研究者等をめざす上で将来像が描きにくいことが問題。

対応

研究と出産・育児等の両立支援とあわせ、女性の進路選択に関する情報提供による支援や、理数教育への関心向上の取組を行い、科学技術分野における女性の活躍促進を図る。

研究者・技術者と中高生の交流機会や事例紹介

18予算案:3千5百万円
(新規)【科・基盤政策課】

- ・科学技術分野で活躍する女性の事例の紹介（ロールモデル等進路選択支援情報の提供）
- ・中高生と女性研究者・学生等との交流の場の実施（合宿・シンポジウム等の開催）

社会教育関係者向けの取組

18予算案:5千万円の内数
(生・男女共同参画学習課)

- ・モデルプログラム事例集作成、研修会の実施等

女性の進路選択支援

中学生、高校生

大学入学

大学生

大学院進学

大学院生
ポストドクター

就職

キャリアアップ

研究者、技術者等

小学生

女子小中高生の理数教育への関心向上

スーパーサイエンスハイスクール（18年度運用改善）

【初・教育課程課、科・基盤政策課】
【科学技術振興機構】

理科・数学に重点を置いた取組を大学等との密接な連携の下で行い、教育課程の研究開発を行うスーパーサイエンスハイスクールが、通常取組に加えて行う特別研究において、女性研究者等を活用する研究・取組を支援

サイエンス・パートナーシップ・プログラム（18年度運用改善）

【科・基盤政策課】
【科学技術振興機構】

小・中・高校と大学・科学館等が連携して実験・観察活動等を行い、理数への興味・関心・知的探究心等を育成するサイエンス・パートナーシップ・プログラムにおいて、初実施の際に女子を特に対象に行う取組を重点支援